

講演「世界の投機マネーが日本に流れ込む」

時事評論家 増田 俊男 氏 (02-8)

昨年4月、「2002年、日本経済バブル再生」という本を出し、世間を驚かせた増田さんですが、今年は「土地神話復活」を上梓、すべては資本の論理によって動くから間違いなくそうだと断言。船井幸雄氏の推奨で頭角をあらわした増田さん、その人気はすごく、ホームページには270万人がアクセスしています。片や「2003年、日本は破綻する」の浅井隆氏、どちらに軍配が？

- *今年700兆円を超える日本の国債、「2003年、日本は破綻する」という本が出る所以だ。「GDPの1.3倍にも達した」が、不安の論拠となっているが、抑々国債とは何か？ 政府が公共事業をやるための借金だ。返すのには税収と新たな国債を発行するしかない。が、心配は無用。今後、世界のカネが日本に流れ込み、株、土地が上がるからだ。
- *私がNYでやっているヘッジファンド、これは例えば株、上がっても下がっても、また動かなかっても儲かる…どう転んでも儲かるようにできている投資方法のことだ。命がけでヘッジファンド・マネージャーをやらせたら、世界で日本人に勝てるのはいないと私は経験からそう思う。最後はコンピュータの差ではなく、脳細胞の差なのだ。
- *私は今、全戦全勝だが、その秘訣は「365日先はどうなっているのか」を見通せるかどうかだ。それには「株が上がった、為替が動いた…どう展開するか？」という網を張り巡らすことが肝要。換言すれば、宇宙の彼方から望遠鏡で、地上でやっている戦いを眺めて「こうなったら、ああなるに違いない」…これが我々の立場と言える。
- *今、破竹の勢いで進んでいるのが米国。これに圧倒され、ひっくりかえって寝ているのが日本だ。が、カロリーを消費し続ける米国はいずれ息が切れる。ローマ帝国、英国が好い例だ。他方、寝てエネルギーを蓄えている日本は最後の勝者になる。米国を買っていた連中は大暴落で大損する…この地上のことが宇宙からは真によく見える。
- *「粉飾をやった会社を厳しく罰する」とブッシュが言い出した。株価はさらに下落しよう。今や株価は米国にとって国益。それに反することをなぜやるのか？ 実は株価下落が国益につながるのだ。この4年間に世界のカネは米国へ流れ込んだ。これは投資国にとって対米債権が増えたことを意味する。日本の対米債権が増大したわけだ。
- *バブルがはじけて米国株はどんどん下がっている。6千ドルにまで下がったら、前述の通り、日本は大損し、大儲けするのが米国だ。が、問題はある。株価と家計が連動しているのが米国、消費経済は当然、落ちる。これをカバーするにはカネが要る。「では、日本から」となるが、そうはいかない。詐欺に2度かかるバカはいないからだ。
- *そこで米国はどうするか？ 史上初の大公共投資と大減税だ。前者は60兆円の軍事予算、後者は160兆円の減税だ。米国の基幹産業は軍需産業、ロッキードは20兆円の予算を貰い、次世代の戦闘機を造るのだと言う。減税も現金で渡す。何百ドルという小切手を郵送してくるから、すぐ消費に結びつく…日本と違ってダイナミックだ。
- *そんな米国の戦略だが、果たしてうまくいくのかどうか。世界のカネはこれからどこへ行くのか？ 確実に日本に流れ込んでくると私は思う。その兆候は現れている。今、日本の株価は低迷しているというが、日経225(半年)を「ドルベース(これが世界の常識)」のチャートで見れば30度のピッチで上がっている。バブル時代と同じだ。
- *これから日本株はドルベース(円高)で急騰すると思う。次は株以外に流れ出す。言わずと知れた「土地」だ。「土地神話復活」を書いたのもそこにある。都心の不動産価格は1月から急騰している。一戸建てで3.9%、中古マンションで2.9%アップし、高層マンションは高いもの順に売れている。まるでガソリンに火がついた勢いだ。
- *日本に入ってくるカネの量を考えればよい。1日、世界で動くカネは200兆円、仮に1割入ったとしても政府の2200億円と比べれば…。資本主義はカネの量で決まる。「株、土地が上がって不良債権ゼロ。構造改革はもう終わった、小泉さんどうする？」も、まんざら「真夏の夜の夢」ではない。「2003年、日本は破綻する」はあり得ない。